51.

開始後の成績

右の如く此の診療所は醫藥分業主義であるから、診察料は表面無料でも之を藥價に轉嫁せしむると云ふ樣な弊害は絕對に無く、且つ醫員は最も善良なる裁判官と同樣な立場から最良の高價藥をも自由に處方することが出來るし、尙ほ所謂『患者の財產の賦を見る』等の必要もなければ又たそんな人格の所有者は一人も醫員中には居らず要するに『宜く利く藥を與へ』極めて親切である』と云ふ點から、開設以來殆ど類例のない繁盛を見てゐる。然し四月中には宣傳が充分でなかつた爲めか齒科の患者は割合に少なかつた。また產婆も二十日から開始した許りなので是も少數に過ぎないが、五月中には充分の宣傳を行ふ豫定である。四月一日開始より三十日までの診察患者數は左の如し

各科	延人員
內科	二百六十二人
外科	三百〇八人
齒科	五十五人
產婆	三人

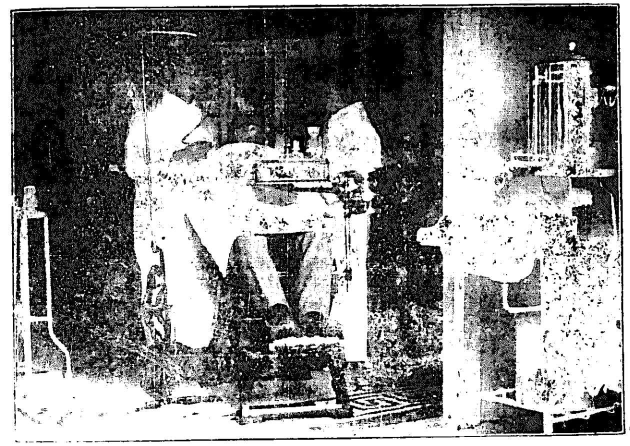
之に對する赤三角藥局の投藥數は五百七十二人其收入二百四十六圓七十錢にして即ち

△患者一人當り二日分治療費僅かに五十錢前後

である、且つ

吸入器貸出數 二十八人
檢溫器貸出數 十一人
氷袋貸出數 六人

にして往診數は六人であるが、之は醫役に於し往診の必要ありと認めたる場合にのみ便宜上行ふことにしてある



王子診療所。齒科手術室

開設披露會

此の診療所開設に先立つて去る三月廿六日午後六時より監督河津博士主催者として、アスカ山前扇屋洋食店樓上に於て披露會を催し、事業の精神、目的、規模等に關し博士及び杉原、長岡の各幹事より詳細なる報告を行ひ、之に對し王子製紙工場長田藤氏は招客を代表して懇篤な謝辭あり、且親しく長岡醫長の友人として醫長の人格に就き陳べられた。續いて築地林病院吉川副院長は起つて獨逸碩學[illegible]を引き多年親ら薰陶せる今日の長岡醫長の手腕に推賞及保證の辭を、極めて力强く述べ滿堂の傾聽を喚起せられ、終つて同氏の發聲に依り事業の前途を祝福し乾杯後、湧くが如き歡談裡に同九時散會した、當夜の列席者は左記の如くであつたがいづれも宴の前後に委員の案内に依り

▽診療所を實地檢分し非常な滿足を以て委員等を鼓舞せられ、且つ當夜列席の**朝日新聞、東京毎日、讀賣新聞、國民新聞、中央新聞**等の社會問題擔任記者諸君が翌日の紙面にいづれも二三段抜きの大記事を以て報道推賞せられたことを茲に特記して深く謝意を表する

當夜列席者（順不同

（主賓）協調會小林勞働課長、農商務省古瀨工務課長、王子警察署長代理、瀧の川町役場助役、農商務省山野技師、吉川ドクトル、王子製紙工場王子工場長田藤氏、同十條工場楠野氏、王子町長代理、關東酸曹・東京毛織、日本フエルト、東洋紡績各工場代表、王子製紙重役代理各新聞記者諸氏

主人側）河津博士、幹事長岡醫長、同桂法學士、同杉原、委員吉村醫師、平戶藥劑士其他

尙ほ伊藤幹事は折柄胃腸病にて熱海へ靜養に赴き委員山內たづ子は所用にて不參した